

令和2年度 第13回 邑南町教育委員会 会議録

1. 招集期日 令和2年12月3日(金)
招集場所 元気館 健康指導室
2. 出席委員 土居教育長、森岡委員、服部委員、井上委員、武田委員
3. 説明のため出席を求めた者及び参加者
高瀬学校教育課長、大橋生涯学習課長
4. 会議録に署名すべき委員の指名
井上委員、武田委員

土居教育長：

日程第1

これより、第13回の邑南町教育委員会を開催いたします。

(19:00～)

日程第2

今日の教育委員会の会議録署名は、井上委員さん、武田委員さんをお願いをいたします。

日程第3 協議事項 公民館のあり方について

総合教育会議を受けて、町長に回答をする必要があります。公民館のあり方についてということで、資料を封筒に入れてあるもの以外に本日の流れとそれから事務局案、公民館活動のさらなる充実をめざしてというのが今日お話しする文章、それからもう一枚は、邑南町の未来を創造する公民館構想という資料があります。これは平成30年の8月に公民館がどういうふうにあるべきかということを検討委員さん方にお集まりをいただいて、何回も会議を開いて文書化したものです。その中の最初の1ページのところに書いてあるところをコピーしたものです。なぜこれを示したかということとは後で触れたいと思います。最初の本日の委員会というレジメを見てください。

先般開催しました総合教育会議の町長の提案というか、思いというのを書き留めてみたんですが、これぐらいで良かったですかね。まずは公民館の使命というか、どこを目指してどんな活動をしようとするんのか、よくわからんという出だしから、地域の課題や声に応えていないんじゃないかという指摘がありました。提案としては人材を育てていない、いわゆる弱い地域には人を充実させてはどうかという、ある意味提案がありました。それから3番目は、口羽公民館はNPOに任せた方が良くないかというご意見もありました。これは教育委員会自体を全然そういうことを聞いていないんで、お答えする立場にはないんで、どうかなとは思いましたが、今日の会議で協議をしてみる必要もあるのかなと思いました。それ

らを答えていくためにまず1の公民館の使命、どこを目指してどんな活動をしているのかわからないということを、点検をするためには、この邑南町の未来を創造する公民館、これからの公民館活動どこへ向かっていくのか、というところについて、点検を試みる必要があるんじゃないか。教育委員会の事務局として、こういうものを作ってもらっているのだから、それについて点検・評価すべきじゃないかということで、1番目、タイトルは地域住民と行政の協働づくりの場というのがこれから公民館の目指す道ではあるんですが、町長の思いというのは、公民館主事がいかにがんばるかというところが問われたので、このページの1ページ目のところをコピーしたのは、1、2と2つ書きだした、地域を深く理解し、地域を支える町職員公民館主事を目指そうや、というのでそういうことになってるかどうか。それから地域の豊かな人材を育む公民館になっているか。近づいているか、というようなことで、点検評価を試みようということで、昨日は私と大橋課長と担当の小笠原補佐とで1日いろいろ議論をしました。それから今日は、3人の公民館主事、阿須那の公民館、それから田所の公民館、井原の公民館の3人の主事に、1、2についてどのような取り組みをしておるか、あるいは意識してやっとなかというように事例を紹介してもらいました。事例がこの、それぞれの公民館は1年間の振り返りですが、この3枚、中にこの色刷りの井原公民館事業報告というのが、これが井原公民館、1年目ですが4月から取り組んだことを、今朝は口頭で話をしたものをペーパーにまとめてくれました。それからこの表になっているのが阿須那公民館、表でない裏になっているA4サイズが、これが田所公民館、が取り組んできたものです。それらの話を聞きながら、もう一度、昨日話をしたものをまとめたのが公民活動のさらなる充実を目指して、というのが事務局でまとめたペーパーです。今日は、これが教育委員会の回答としていいかっていうところを皆さんにまず協議をしてもらいたい。そのあと弱いところに人を付けていくかどうかということ。これは教育委員会で決める事にはならないんですが、それを受け入れるかどうかという協議。それから3番目は口羽公民館をNPOに任せるか、ということについても協議をしておく必要があるのかなあという気がしております。それでは町長に返す回答書ということで、まず公民館活動のさらなる充実をめざしてというペーパーをご覧ください。はじめにこれからの公民館のあり方ってということで、人づくりによってよりよい地域づくりに貢献するのが公民館の目指す役割だということ。それで、その中で公民館の職員は地域を深く理解し、地域を支える町職員としての公民館主事であればならない。それから地域の豊かな人材を育む公民館をミッションとしていろんな取り組みをしてもらってます。不十分かもしれないがということで、求められている課題ということで、地域を深く理解し、地域を支える町職員公民館主事に、本当に近づいているだろうかということで、公民館の職員も結構頑張っているような生活課題や地域課題を捉えて、その講座に取り組んでいるというところは理解してもらわないといけないので、実践例ということで、生活バス

の利用活動、これは布施公民館が、バスの使い方や、時刻もよく分からないというような声を受けて、公民館主事が実際に町の職員、地域みらい課の職員に来てもらい、バスの乗り方とかあるいは時刻表とかを見てもらって、実際に三次まで買い物に出かけた取組をしています。それから地域学校も当然ながら地域の課題に取り組んでる事例です。それから今年度はマスクが足らなくなったということで、いろんな公民館で布マスク作りに取り組んでももらいました。阿須那では独居あるいは高齢者の見守りが本当に出来ていない。亡くなってから何日か経ってようやく気が付くような事例が続いたので、そういうことを地域の課題として取り組んだという事例です。あるいは井原公民館のSNS講座、これは地域の人が公民館でスマホの使い方がようわからなくて、というのを教えてもらいたいということで、武田さんにも講師になってもらいながら、人権の講座も含めて若い人がグループの中について指導するようなやり方をしました。というのを今日聞かせてもらいました。そういう取り組みをしている中で、結論的には地域の生活課題や地域課題の把握が不十分であり、解決につなぐための学びあるいは集いの取組が弱い。できているところもあれば、そういうところが十分でないという公民館もあるんじゃないかということで、不十分だということで結論を付けております。

公民館というのは学ぶ・集う・結ぶということなので、どういう評価をしていったらいいんだろうかということで、そういったところから結論付けたということです。それから2番目は地域の豊かな人材を育む公民館ということで、人材といたした時に、優れた活動かというようなイメージを我々は持ちやすいんですけども、それだけじゃなくて、いろんな多彩で多様な活動が出来る人、そういう人を人材と呼ばないと、人がいない人がいないというふうになってしまうんじゃないか。活動できてる人イコール人材だというふうなとらえ方をしていた方がいいんじゃないかということで、あえて書いております。実践例では公民館エリアごとの地区別戦略作りが出来てるのは、これまでの公民館の活動があったからそういうことができたのじゃないか、あるいは地域とともにある学校づくりで、いろんな人に参加をしてもらいました、昨年度。あるいは公民館同士の交流、あるいは学校とふるさと学習を結んだという取り組みなんかも、将来の人材を育てるという意味ではそういう例もあるんじゃないか。結論ですけども、活動する人に若い人や、女子など広がりには乏しいんじゃないかという結論です。多種多様な活動を通し、活動出来る人、して欲しい人などの発見育成が十分でない、徹底してないんじゃないか、という結論にいたっております。これは今日の3人の公民館主事にも聞いていただいて、付け加えとか直すところということもなかったので、こういう結論でいいのかと思っております。まず、そこまでのところで、こうした点検・評価の仕方でいいのか、あるいは結論はこれでいいのかというところを、委員さん方のご意見を聞かせていただけたらと思います。どなたからでも結構ですのでよろしく申し上げます。

服部委員：

最近年寄りが多くて、住民票なりいろいろなものを役場本庁まで取りにいってというようなことも、なかなか大変なんだけど、そういうのって公民館でやってもらえるようになる、ようなことは行政としては無理な相談なんですか。すごく難しいことまではないけど住民票とかちょっとした手続きなんか。

井上委員：

実際やっているとところはあると思います。公民館が代わりにやっているとところもありますし、郵便局がやっているとところもあります。

土居教育長：

あれは議会でも一般質問で出たんですけども、その機械を整備するためにはものすごい高額の予算があるので、なかなか住民票を取ったりなんかするのは難しい。

井上委員：

実際に機械、端末があります。この辺だと川戸の局に一つ置いてあります。ランニングコストは教育長が言われるようにかかるんですよ。機械も行政の方に買ってもらう、通信費等もかかるということなんですけど、今はそれとは別に包括事務受託、要は役場の窓口の事務を窓口でやるってというようなサービスもあります。それは機械を繋ぐんじゃないで、FAXとか使いながら。

服部委員：

時間はかかるけど後日みたいな。

井上委員：

多分契約の中身によって変わってくると思うんですけど、行政サービスを支所が撤退するんでそこに郵便局がかわりにやるような、局が全部で去年から。郵便局の方は町の方へ包括受託、事務受託の話は一通りはしています。どこの行政に対しても全部やってるはずですよ。あとはそれこそいろんな問題が、いろんな問題がっていうのは法律的にはもう総務省整備したんですけど、最終的に具体的に言うと議会も通らないといけないし、それから一番はたぶん組合員だと思います。要は今まで役場の職員さんがやってきた仕事を郵便局がやるって話になると、人がその分必要なくなるっていう話になって、役場の人数を落とすというところ、たぶん出てくると思うので、組合の方の説明が多分でてくるのでその辺が難しいと思いますね。議会ある程度なんですけど、最終的には組合のことはありますが、できなくはないです。

土居教育長：

いろいろな手続きの説明とか相談とかいうのは公民館でもできる。だけどそういう書類を取ったり、印鑑証明取ったり、住民票を取ったりというのは、そういう法律上の整備をしたり、機械を導入するということで、ものすごいお金がかかるので、なかなかできない。それをやると、公民館の主事が、それにかかっておらんといけんようになって、別の職員がついてくれるんなら、公民館を使ってもらってもいいけれども、公民館の職員がそれをやるということになると、その仕事も全部いないといけないので、事務職員さんにやってもらう訳にもいかないの。住民票を取ったりなんかする場合は、居ないといけなくなるんですよ。

森岡委員：

今はどうなってるんかね、阿須那の公民館は、住民票なんかは持っていったりしよるん、あすこだけはやっておる。

大橋生涯学習課長：

主事がというよりは、支所の職員さんが、持って来られるんだそうです。

森岡委員：

市木公民館に行って話をした時に、主事さんが、この書類を役場に持って行ってとかあるんです。自分が行くときとかようあるんで、持って行ったりすることもあるし、中にはこの税金をもっていってよとか、ある部分はちょっとやっぱり抵抗を感じるんで、そういうのはできない。また、アンチングプライバシーにかかる部分ではできないと言ってたけど、やれん時には持って行ってあげることもあるんだけど話をしながら、ただそれは公民館主事としてではなく、公民館にみなさん来られるんで、ある意味主事さんにとって善意でやっとなられるわけなんで、彼と話をしたら、そういうのをちゃんと制度化、ルール化されてくると自分らもいろんなサービスもまわってしやすいねと言う。そうだねえと話をしたんだけど、そういう検討を今、すべきだと。いろんなことを繋げていくってのを昔からやろうってことで、多分今もやっと思ってるんだけど、そういう具体的にねそれじゃあどうかという、税金をもっていけるかとか、いっぱいあるじゃない。そういうのを公民館主事の導入するってものでもね、長期的にじゃないんだけど、それに限らず公金を扱えるんで、ちゃんと制度的に作っていけばまだまだ、地に入ることができる。町長いろんなことを言われるのをあの中で、公民館敷居が高いよねって言われなかったですか。過去そんな話もあったですよ。あつたんだけど実はこの中には、ちゃんと書いてあるですよそのこともね。公民館には地域の住民に気楽に足を運べるように敷居が低くなくてはならないと、ちゃんとここで言ってるわけですよ。それを実はその町長に反論しようと思ったんだけど、たまたまそこを見とったんで、言えんかったんですけど。あれとかいろいろ

繋いでいくとかね。ちゃんとこれにも今のよろず相談のみたいなこともやっていかにゃいけんって書いてあるんで、あこに目標を持つとるんだけどな。多分おそらくいろんなどこいろんなどこ聞いとられるわけじゃないんだろうけど、なんかこまごま断片的に聞かれた分で、非常に面白なかった分があるとは思う。そういうふうに言われるけど、思っちゃいけんし、その辺もちょっと付けくわえることができればいいんじゃないかと思う。制度的に可能ならばですよ。今はどうかわからんけども。制度的に可能ならばやればいい。この間町長さんの話で公民館主事にもう一個辞令をだすことはできますよ。簡単に言ったんだけど、それを二つの辞令が出てれば、どうもなるわけなんで、おそらく制度上は。そういうふうにしてもらえればまだまだ動きだせるかなと。それを置いといて公民館でもそういうふうな、身近な住民に寄り添うサービスをもうちょっとできんかなあと考えてですね。

服部委員：

一番最初の真っ先に町長が言われたのはPRが足らんみたいなことを最初言われたですよ。発信力が足らん、それで私も主事を知らないわけでもないの、昨日公民館行って話聞いてみようかなと思っていったら、たまたまリーダー研修かなんかでおらんかったんだけど、この間スマホのこのSNSの講座やって面白かったよとかって言われて、私そういうこと全然知ってないんですよ。なんで私が知らないのかっていったら、おおなんケーブルを見ない、それに一言、それから公民館だよりとかいうのが出てるんだけど、その今月もこの分を把握してないかなあとか思って、PRが足りんのんか、PRを受ける私の方の関心がうすいのか別にして、なんかもうちょっとこうなんていうのかな。例えば、どこらでも配るけども、主事がちょっとし私の顔を見てきて、見に来て出てやって言やあそりゃ出ん事なからうがと思うが、あの子に言われて私が断ることはなからうなと思ったりもするんだけど、そういうなんていうのかな、ケーブルテレビだけじゃなくて、それこそ主人がふらふら地域に出てって声かけて歩くみたいな、あの今のSNSの時代とは全く逆行するんだけど、そういうほんとに人と人の声かけて、あれに言われたら行かにゃあやれんかっていうようなそういう活動もいいかなと、ここを使うことを考えましたいろいろ。なかなか結論は出ませんでしたけども。PR、PRといわれりゃ新聞社が来て取り上げる、おおなんケーブルに出るばっかしじゃないんじゃないかな。地域のみんながもっとよく知ってる公民館であればあるそう、これがあるそうないことをよく知ってるっていうところがまあ一番なんかなあと。

森岡委員：

出かける公民館とか主事は、出とかにゃあいけんというのは、昔からよう言われよったんですよ。それは出ていかなくちやいけないうのは、主事同士の

会議とか教育委員会事務局出てこいじゃないんですよ。そりゃあそんなする必要はないわけなんで、今はラインもあるし、パソコンでね、全部いろんなことができるんで。それは地域に出ていきなさいということなんですよ。主事が地域に出て話をしとると、公民館の話題にもなるし、主事さんもいろいろやとるねと見せることができる。今頃もできるのは、職員が、とにかく運営費で支払えるが絶対持って行って、そこで渡して領収書を書いてもらってくる。それはなぜかというとそのことをする事によって、そこでいろんな課題が収集もできるし、話ができて情報の収集も出来るんで、もう絶対振込はしないという。そういうのも、それも一つの方法なんでね、出かけることが、できる工夫をすれば。今の公民館主事さんそこまでやとるかなあとと思うと疑問なんで。ある程度主事さんに聞くとほとんど会議なんです。全部内輪のなんです。どこに行くとるとという教育委員会の事務局ですとか、どこどこ公民館に行ってますっていう話なんで、それじゃあなあと考えたことがある。地域に出て行ってなんかしてるのは、見ることってのはほとんどないですね。そりゃあなかなか時代が違うんで、どう言っているのかわからんけど。多分その辺も含めて公民館のあり方も何も見えてこんという話もあるんじゃないかと思う。物理的な問題として。たださっきいった郵便局さんでもいろんな行政の肩代わりが出来る、出来ることはあるんだけど、まずはその部分を、公民館うちは幸い12あるんです。島根県こんなところないわけでしょ。まず町職員が出て行って、分任出納印もって、公金が一応かまえると、そういう職員が12地域に出とるんで、それをもうちょっと公民館の主事の活動の中に組み込んで、できると違うと思うよね。公民館の使用料はそこで現金ではらえんのですよ。そんな時にこれ保健課にはらわにゃあいけんのがあるんだけど、ここで切っただけ徴収してもらえんて言うたら、それは出来ないので、あこに持って行って下さい。うちできませんって話があって、そんな時そのこと自体、なんと冷たいよのうという話をしに来た。そういうこと一つ一つ多分できると思うんですよ。その保健課のもんだらうと、公民館に行ってこれすみません受けてもらえませんか言うと、書類上の操作すればええ訳でしょ要は、どこに入れるかを。これを貰いますけどこれだめよという話をされるとやっぱりねえ。そうなる公民館主事が地域により出ていくっていうのもなかなか絵に描いた餅みたいになるなあとあったり、いろんなことを感じます。なんとなく公民館がお役所的になっているなど。

服部委員：

これだけ行事をしようと思ったら前段階の準備とか相当大変なんだろうけど、あのを活動報告でこれやりましたあれやりましたって言ったら、そこにたった日付だけじゃなくて、その前の一週間、十日っていうのは準備ですごい掛ってるんだから、なんかあんまり姿が見えんとかそういつていうのは、私みたいに見ようとしたくないものが大分おるのかなと。公民館自体がかなり活動をしているんじゃないかなと、そうするとPRのしようが足らんといわれるんだったら、もっと頑張り

ますというのを、しらしめにゃあいけんのんかなあと。

土居教育長：

町長も我々が、努力が足らんところもあるかもしれんけども、そういう公民館の成果発表とか、なんか呼び掛けていかないと、わからんと思う。地域のひとの声だけを、特定の人声だけを聞いてそうだというふうに言われると、公民館主事にしてみると頑張ってるのにやってないという気になると思うんですよね。いろんなばらつきがあるのはある、だからその十分じゃないかもしれん。そういうところも知っておいてもらいたいというんで実践例も書いておいた、報告する必要があるんだろうなあとという思いで掲げております。1番目の深く理解をしという、地域を支える町職員を公民館主事というところ、今の皆さんのご意見と地域の生活課題や地域課題というのは不十分だという事と、対応や相談に応じる公民館であって欲しいというところを付け加えたらどうかなというふうに思いました。ほか、ご意見ございませんでしょうか。聞いた中で、公民館の活動の成果の中で、そういう人を発掘しようとか育てようとかいうところが、なかなかしっくりおちてなくて、結果的にはそういうことになってるんだけども、評価のところはこの人活動してもらいたいなあいうのが、見つかりましたとか、今度のイベントやる中で、結構若い人もいないとかいうような視点をこうもって取り組むんと、まあ普通にイベントが終わりゃあえかったえかった人が集まってくれたけえかったというふうになりがちになっとるんじゃないかと。だからしっかりとした人を、活動できる人を見つけるんだとかいうような視点で取り組んでももらいたいということもあとで話をしたんだけども、そういうことがないとやったやっただで終わってしまうと、2番目の豊かな人材を育む公民館には届かないんじゃないかなという気がしました。

服部委員：

人を動かしたらお金がかかるので、予算的に人を動かすお金がないんだったら、その人を動かすのはやっぱし楽しみというか、出てって楽しかったよ。時間を使って出て行って楽しかったからまた行きたい、というような思いにさせんとなんか人の発掘した、発掘って言っても、お金をあげますから出てくださって言やあ出てくる人もおるだろうけど、これだけ70超えても働いとる人が多い中で、人を発掘するためにはなかなか予算がないですね。町長さんは面白いことをやりたいって言やあなんぼでもお金を付けちやるみたいな言い方されたけど、どうなんだろう。

森岡委員：

たぶんそのね教育費ということで町長言われたと思うけど、うち大半がその人件費ですわね。12公民館の主事の。

服部委員：

公民館自体の事業の予算てのはほとんどないですよ。ほとんどないって言うちやいけんのんだけど。

土居教育長：

人口割と。

大橋生涯学習課長：

平均すれば、多分30から40ぐらいの間だろうと、年間。

井上委員：

年間で。ああそうかな。

森岡委員：

すごい少ないですよ。

土居教育長：

だけえ、その町外とか、県外の講師を呼ぶと使いまわしてみたいに、あっちで呼んだ者をこっちの公民館でも同じ日に朝昼使うとか、それで旅費稼げますが、講師代はあるんだけど、そうしないといろんな活動がやっぱり出来ない。地元の人材をフルに使わんと本当にただみたいなの、でやらにやあできんと思います。

服部委員：

たとえば私なんかは、畑かまうけどほとんど野菜上手にできんで、近所の上手なおじさんおばさんが教えてくれたら、うれしいなと思ったりするんだけど、そのおじさんおばさんぐらいたったら、今日お昼ごちそうするけえちょっと1時間ほど顔出してくれんか言ったら来てくれそうな気もするんだけども。そういう講師というおっきなのが見つからないといい人はいそうな気がする。だって私たちがいろいろな趣味の会で聞くんですよ、おばさまにね。大根沢山取れたけどどうしようかとか。したら、今度はこうやって作りんさい、干し大根はどうやってつくるのいう話から、豆はいつ蒔くんでとかいうような話が再々出るから、そういう人が講師をしてくれればいいんじゃないかな、改まってじゃあその講義しますからって人がどんどん集まるのはちょっと問題が、お弁当食べてコロナで困ってるってお弁当食べてお茶話をしまししょうぐらいの集まりをやって、その中でそういう体験を話しかしてくれたら、黒板に向かって講義をするんじゃないかともいい講師さんになってもらえるなあと思うですけどね。

武田委員：

私は感想としてはやっぱりこういうのを拝見すると不十分な感じってあんまり受けないというか、すごく頑張っておられる気がしてて、だから何となくここに表現するものってというのがここが弱くて、ここが不十分だからこうして欲しいっていう書き方をあまりしたくないなど。今はじめてお聞きしたですけど事業費がそれぐらいで、今スケジュールざっと拝見したんですけど、行事の数ってすごいですよね。で、全てのターゲットにある程度、ちゃんとした質のちゃんとしたものをみんな毎年やろうと思うと、多分それだけですごく忙しいし、それを発信とかどうとかっていうのは難しいのが現状だと。それってすべて主事さんの個人の能力が問題なんじゃなくて、この構造が問題でどこの公民館でも同じ忙しさで疲弊してると思った。やっぱり今、一度ゼロベースでもし考えていいんだったら、やっぱり前みたいな、ちらっと言ったんですけど、たとえば僕がこの間井原公民館でSNS講座をしたやつを映像で同じところで飛ばすとか、いつでもだれでも見れるようにしとって、その同じ事業を他の公民館その年はやらないっていうことにして、だからもう極端な話なんですけど、集まって人をやるっていうのをもしかしてこうできないっていう前提で、一回ゼロベースにするってなったら、それを全部整理したら多分この事業費のかなりの半分以上浮くような気がして、じゃあここで今求められているのは何かっていったら、課題解決をする、持続するとか、発信する活動して欲しいということだったら、ここに事業費の100万とか200万とかを全部充てて、一つのテーマを12公民館全部で1個充てるっていうのが、その年のテーマを一つ決めて、なんかやっていくぐらいの破壊力をもってやったら、おもしろいかなと思ったんですけど。現実的かどうかはわかんないんですけど。ただ、SNS講座の時もそうだったんですよ。あの時も人数制限があるから、言わないって言ってたんですよ。結局人数10人から15人しかよべないから、来たそうな本当に携帯使えない人にだけ声をかけた、みたいな感じで。それならわざわざやらなくていいかもしれないし、もしこれからコロナで1年、2年と同じ状況が続くんだったら、今あるこの事業ですかね、同じスケジュールで同じようにやって、消化していくんだと1回ゼロベースで考えて効率よくするところを徹底的に効率よくして、浮いたお金で一点特化で、何をするかはわかんないですけど、おもしろい企画いっぱいありますよね。この中のどれか一つを全員で全力でやるっていうことになったら、多分かなりの課題も解結できるし、おそらく発信力も。今はちょっと住民票がどこかで取れるっていうのはどれくらいかかるかわからないですけどそれが、100万円で1台買えるということになったらそれを公民館の力で一回作ります。1か所作りますって言って、それを100万円投入して、1か所でやった成果をみて次の年から広げるか、そこだけで終わるか決めるっていうのは、実験的なものをこの事業費の中でしたらおもしろいかなと思うんですけど。そんな乱暴なことはできないですかね。僕は1回全部やめてもいい気がするんですよ。今年は良いタイミングだと思う、やるとしたら。やるなら今

しかないでしょう。発信力と課題解決だったらそれしかない。事業費がないんだったら。

土居教育長：

お金がなくても出来る事はあると思うんですよ。そのすべてがお金が掛ってできないということが、例えば健康教室でも保健師さんと呼んだり、あるいは町の職員を呼んで、講師にしていろんな講座を組み立てたりするという。

武田委員：

そういうのってすごいやっつけられるじゃないですか。今多分小予算で地域のそういう細かい課題を解決するってのをものすごく丁寧にしとられて、そのノウハウの蓄積がこれじゃないですか。その発信力、いわゆるこれって発信するものじゃそもそもないから。じゃ効率的に出来そうなのは講演会。だれかの話を聞くってというのは、遠い公民館同士で統一して一回で終わる、っていうやつにしても、そこで出てきた予算をちょっとなんかに、徹底的にイノシシ対策を公民館が主でやるとか、そういうのやるといいかなと思って。忙しいですよこれを見ると。これだけやろうと思ったら、多分他の事は無理で、何かを提案するんだったら、何かを削らないとちょっと不可能です。あとこれもやっぱりここで議論するんじゃなくて、主事さんに話した方がいいです。ここで発信したことってというのはどういう扱いになるんですか。これ提案みたいなことになるんですか、主事さんに。

土居教育長：

町長に返さないといけないので、返した後は主事と共有していかないと。

武田委員：

そうなったときに、町長さんから主事さんと一緒にこういう企画をしようみたいな話になるんですか。我々の位置ってのはどういう感じになるんですか。

土居教育長：

公民館は教育委員会の主管なんで、町長がやれとかなんとかいう権限はないんです。首長部局じゃないんで。だからその教育委員会で考えてくれというのは、そういう意味なんです。

武田委員：

じゃここであげたものは、GOサインが出たらそれを主事の方に情報が行って、一緒に考えようみたいな感じになってるんですかね。

森岡委員：

明日のこともある。とりあえず明日クリアしないといけない。それ以降に今武田委員が言われたように、我々がどうなんですかという分で、できればこの教育委員会では主事さんと話をしたことまだ一回もないんで、ある意味そういう話も一緒にしてみるってのはいろんなことが情報が出るし、いいんじゃないかと思うんですけどね。

武田委員：

今見たいな、妄想みたいな僕も思いつくというか考えることは出来るんですけど、それが現場とかすごく離れてると思うんですよ恐らく。やっとなられる方々には、もっといろんな意見があるでしょうし見えてることがあると思うんで。だって今ここで僕は個人的にはなんかいろいろこうやって資料見せていただいたりとか、僕なんか田所のところにいつもお世話になってますけれど、そういうのを見てると、やってない感はないけど忙しかったり、上手くいかない要因がありそうだと。で、それを一緒になってちょっと検討する機会を設けるとか、情報収集して、この組織の構造みたいなものを検討していく必要がある。そこを変えるとそれぞれの良さとか主事さん一人一人の持ち味っていうのを発揮されるようなフィールドの準備が出来るんじゃないかみたいなニュアンスが個人的にはいいかなと思っています。

服部委員：

すごいし頑張るとられる。

武田委員：

そうそうそうなんですよ、やっぱりこういう資料等作るの大変じゃないですか。そうなるとうような仕事を減らしてあげたら、いけるかもしれない。あと若い人や女性に広がりにくいっていうのは、多分みんな忙しいからな気がして、忙しいですよ、若い人が。かなり無駄な行事を削るとか、何かを踏みつけにするみたいな気がして、公民館行事に魅力がないから行かないんじゃないかと、そもそも忙しいから行けないってのが、多分現実だとは思いますが。町内のそういう行事とか忙しさみたいなもののせいみたいな話の方が本質的な気がします。何となく。みんなめっちゃ忙しいですよ。多分主事さんもそれをわかるとられると思います。

森岡委員：

夕べ集まって会議で話がありましたよね、要はそういうところに人材をこう配置したいとかすべきじゃないとかいった、ただ具体的にぽっと出たのはね、日貫、日和ってのは違うた。なんかそんな言い方しとられた。阿須那その辺のことなん

かいろいろ感じられることがあるんかもわからんな。

土居教育長：

日貫はやっぱりその若い次の世代がおらんのんじゃないか、結構年配の人が頑張っとならって、日和は割と若い人が最近出てきたり、そういうその世代交代がうまくいってるとこと、うまくいってないところがあるんよね。そこら辺が次のさらなる充実のためにといった時に、そこら辺を公民館同士で学び合うような、そういう一緒に取組んでいくような組織をしたり、せんといけんのんじゃないかなあという。今日もあの田所の主事が言っただけでも、課題のところでも田所の人ってなかなか地区戦でやっとなる人は、ありゃあ好きな人がやっとなるんだとか、その自分のごとじゃないような感じをどういうふうに顔を変えていったかという取り組みの話をしたんだけど、結構矢上も同じなんです。人数が多いところは、どうしてもそういう、なんか好きな人がやっとなるわというぐらいの危機感がないから、そういうものになりがちで、矢上とタッグ組んで、一緒にこういうふうにやったら、どがあなつたというようなことをやったら面白いんじゃないかという話もしたんだけど、やっぱりその地域性があるって、課題の似たり寄ったりするところも、結構あるんですよ。そういうところがこれから一緒になって、主事同士でその地域の課題やら生活課題を一緒になってやってみようじゃないかというようなことが、できるようにしてやったほうがいいんじゃないかと。井原は鳥居さんがおるじゃない、あの地区戦で。鳥居さんに相談すると、よっしゃよっしゃ言うて、何でも言うてもらえる。だから相談しやすいんで、とかいう話が合ったんだけど、そういうところばかりじゃない。本当に一人でもうっとして課題は見えとるんだけど、どがあやってやったらいいかというような公民館主事も多分おるんですよ。今日聞いた公民館の者は結構やり手の職員なんで、できてるなあとは思っただけでも、そうでない公民館もあると思うんですよ。だからそういう公民館も一緒になって取り組むような形を支援というか、そういうものをできるようにしてやらんと、一人職いうのはつらいですよ。それをまあ、さらなる充実のためとところで、まあ公連協があるんで、公連協のテーマにしたりというあるいは、公民館主事同士の取組にしたりというようなことに変えていったらというのがなんぼうかの取組、来年度からの取組の一つです。また主事によっては、そういう地域の人声から課題を見つけて組み立ててやっていける主事もいるんですけど、そうでない主事もいないことはない。そういう生活課題や地域課題をどういうふうに把握していったらいいんかとかいう、正に阿須那のように自治会に何回も出かける公民館を組んでるところもあるんですよ。そういうところで、地域の人声から課題を読みとっていくようなそういうことも大事じゃないかなあというので書いてあります。それから公民館主事の適正というか、教育委員会には人事権はないんですよ。要するにあてがわれていって、何ぼうか過ぎたら、帰って来いや言うて本庁に帰るような仕組みになっとならって、ど

うしてもこう短い人もおられるんですよ。から、長い人もおる。長い人が本当にこう公民館が好きで長くやってるかというところとそうでない場合もあるんですよ。最低3年は取り組んでもらう必要があると思うんですよ。何もわからんうちに1年とか2年で、せつかく社教主事の資格を取ったのに、本庁の方に引っ張られて行くような人もおられるんですよ。何のために研修したんだろうかなという。最低3年やってもらって、あと何年かが、教育委員会の方で面接をして、やっぱりやりたいとか、好奇心が強い人とかそういう適正のある人は、何年か続けてもらうようにしていくというようなことも必要なんじゃないかなというので、書いておきます。それから人づくりっていうところで、多種多様な公民館活動に取り組む中で、やっぱりさっき言ったように評価に活動出来る人の発掘とか育成をやっぱりねらいにして、取り組んでいろんな活動をする中で、次この人が違うところで頑張ってもらいたいよなあというような、そういう人を見る目というか、そういうものも必要なんじゃないかなということ。それから以前にも聞いた声なんですけども、町内でいろんなことをやってる人同士のつながりが薄いよなあということが声がありました。そういう活動しておる人とか、あるいは活動して欲しい人の町内でのネットワークづくりというのは本当に必要なんじゃないかという事。特に女性で、いろんなところで輝いている人もいるんだけど、そういう人が女子中学生とか、高校生に出会ってないんですよ。だからアンケート調査をすると、女子中学生とか高校生は、あんまり町に魅力を感じてないんですよ。だからあんまり帰ってきてない。そういう調査データがあって、やっぱりこう女性が活躍している場面いうのを、やっぱり作り出していけないといけんのんじゃないかなという課題もあるんじゃないかなということで、なんか公民館ごとに、3人ぐらいはなんか活躍してる人を見つけようじゃないかというような、目指すところを示して公民館で頑張ってもらえばどうかなあと言うので書いておきます。また昨日の意見交換会の中であったように地域課題の発見や解結方法を学ぶ講座も必要なんじゃないか。これは町一本でリーダーのネットワークなんかのところであわせてやれば出来る事じゃないかという気がして書いておきます。それから地区別戦略と公民館の関わりこれが課題になってますけども、地区別戦略のテーマの中で生活課題や地域課題になってるところ、そういったところは公民館としても後押しをする。周りというところで後押しをしていく。それから交流というところも掲げているので、そういう地区別戦略の中で人との出会いというところも応援できる、支援できる、公民館が支援できることじゃないかなということで、結局地区別戦略で頑張ってる人が後々公民館活動でも活躍している人にもなるし、公民館で活躍している人が地区別戦略で活躍している人になるので、そういうお互いのいいところを人づくりという場面で、両方がメリットを共有するような考え方でいったらどうかというので、今後取り組む課題を三つに絞って書いておきますが、いかがでしょうか。先ほど武田委員からもあったように、仕事量を減らすことによって焦点化してこれらに取り組んでいくということもあると思いま

す。それは言われたようにネットで講座を町内一斉にみんながこう作って、誰かが作ったものをネットで流していくというのが、公民館がWi-Fiの環境が多分そろっているんで、そういうこともこれからは出来ると思います。それは費用の面からも、活動費を節約できる方法でもあるし、家で聞くというのは、講師の理解があるんで、なかなかできんかもしれんけども、公民館に出向くというのは多分OKだと思うんですよね。そういう時間を、節約をして二つの狙いをどういうふうに迫っていくのかというような、来年度はこういうことに力を入れてみんなで学びましようやというようなことに繋がっていくといいかなというふうに思いました。

武田委員：

個人的にはすごくしっかり聞けるんですけど、主事さんたちはこういうのって言われたら困るんですかね、どうなんですかね、こういうの。なんかみんなで一つのプロジェクトを抱えてくれませんかみたいな感じになりますよね、多分投げ方が。困りますかね、どうなんだろう現実的に。

土居教育長：

共通した課題だったら、タグを組んで、公民館同士の交流もやってるので。だから雛街道なんかは広がっていったわね。そういう出羽でやってるのを、公民館が違うところの公民館、町内の公民館に行って、うちでもやってみようじゃないかというようなことにもなってるし。今日話があったのは、公民館主事言ったのは、阿須那の人を連れて行って、市木の講師で学習会をするというようなことを、なんか発想して、なんか手芸をする仲間の人、市木の人と一緒に来ちゃったとかね。だからなんか共通したテーマでなんでもかんでもいうわけにはならないけども、こういうテーマでタグを組んで一緒に取組んでみましょうというのはいいかもしれない。一人で抱え込んでも、それのそのどういうふうにかこうテーマを絞っていくかというところは、まあちょっと時間をかけて、話し合いをする必要があるんだろうけども。町の公連協があって、それは今までもお宝発見とか、マップ作りをしようとか、そういう括りを取り組んでおられて、そういうところからカルタがあちこちできたと思います。市木やら阿須那やら、日貫もできたよね。ずっと作っただけじゃなくて、活用が子どもに広がったり、市木なんかは広がったりなんかしてました。

森岡委員：

この間言った地区別戦略、公民館の関わりなんですけど、この間の話なんですけど公民館主事が歯車の中じゃないんだけど、折角地域の課題そこで皆さんたち話し合いをしとるんで、やっぱり公民館主事が出かけてると思う。そこでやるというんなその課題も見えてくるんで、もちろん自分で出かけておって大切な会議っ

ていうのは、地域を深く理解するためには一番簡単な方法なんかなど。そりらはあらゆる分の話し、そん中で課題も見えとるんだけど、ただ自治会がそれをやるためにはどういうかって場合には、なかなかそういうどっかからこういう提案出て、みんなで、自治会の役員だけじゃなくて、地域のみんな集めてから学習してみようかということ、呼びかけてやるのが公民館主事が出来るんですよ。なかなかその自治会のみんなはこれやるこれやるこれやると思うんだけど、それをやるアプローチするためにどんな学びをしようかなんてことはちょこっとも思ってない。そういうところに公民館主事がこの辺こうなんで一緒に学習してみましようとか、そういう課題は簡単に見つかると思うんで、そういうところ公民館主事が地域と一緒にやろうとなってくるといろんな課題に行けると思うんで。そりゃそんなにいつもいつも話をしとるんじゃないんで、月に一回とか二月に一回夜一時間か二時間話をして、その次又どうしようかというようになってくるんで。

土居教育長：

奈須君は、委員の一員として、出ております。参加して、それから藤井君もそういうところに出ておるし、今日3人みんな地区別戦略には一員としてかかわってますよという。

武田委員：

出とられんともあるということですね。

森岡委員：

そうですね。ただ、委員が入っていくとように回るまで、じゃなくてそれには公民館主事にも話を聞かせてください。出れる時は出ますよな感じで関わっていくことによって課題を見つけて、公民館の選出でいろんな学びに参加できる、で課題解決という。

土居教育長：

田所の三宅文士君は、まるまるその歯車になって大変だったけども、奈須はよその地域の人間なんで外してもらって、だけど一員として参加してますっていう。その前は、あがあだったよね、日貫なんかもそうで、本当にプレゼンやる時には、公民館主事が出てやりよったから、そこはどうなんかなあという。人を育てにゃあいけんのに自分がそのやってしまうと、ひとを育てる事にはならんだろうなという。お前町の職員だけえ言うて、上手に使われたり、断れんわね、そういわれると。

森岡委員：

そういう意味では上手に関わってきた主事さんにしとくと、そりゃあ後で事務局の中でちゃんと話をして関わっていくのがいいんじゃないかなと思う。

土居教育長：

やっぱりそういうこう生活課題やら地域課題がテーマになっている場合があるんで、そこんところはお互いだよなあという学びを組み立てて、講師を紹介してあげたりなんかするのは公民館主事として得意なところなんで。

森岡委員：

課題からくるものは地区戦もそうなんだけど、ひよっとするとここにおいてみて、どこどこ地域こんな課題があるよなと思う分がひよっとすると地元の人が気づいてないこともあるかもわからんよね。まあそのところを少しくやあって、ここはここです。この間の時市木公民館へ行ってこの話をしたんだけど、どんな課題があると一自治会、一公民館一社協なんでね。話したら今年スキー場無くなったんで、スタンドがどうなるのか話してみたら、皆さんで。と言うんだけど。そういうことなんかあれば少し押してやるとか、そりゃあ恐らくそんなこと自治会が考える言われるかわからんけど、自治会はそれ学習できる案はみなさんのでね、やっとする学習かもわからんけど、その辺公民館主事のやり方かな。これを書いた分はこういうことだよというふうなところでやって、あとNPOどうするか。NPOの分もそれはもう井上委員さんよくご存じだと思う。我々もね出羽地区社協であこの取組で研修行っと思ったんですよ。そうすると出てくるのは、公民館はNPOが出来るという話になるんですよ、われわれの中にでもですよ。でも向こうが言われるんが、そんな時なんか何かというと、公民館主事1年間人件費なんぼ掛るんと。具体的になんぼと話されるわけですよ。公民館ジャーはお金にすればあれなんだけど、その金が我々がもらえれば公民館の運営まずはしますよという話で、自信があるんかもわからんけど、そんな感じで話されると、内容深く知らんでも出羽のようなふうになってしまう。研修行っとするんでまたそのあのあれなんで、それでもって言いたいのに研修いっとするんでそうですかって話に、きかれとらんのに、なんかその辺はすごく。我々は全然その出羽で社協でいっとしても、公民館の話になると我々に公民館活動を任せて欲しいんだみたいな、具体的に人件費が何ぼうになるんでそれであればという話になってくる。全体のうち事業費はこれなんだけど、それに公民館の主事さん人件費部分だけでええんでももらえれば、今以上やりますよという話をされた。

土居教育長：

町長への回答はこれでよろしいですか。

井上委員：

結局、町長の思いがどういう感じなのかははっきりわからんようなところがあるんで。

森岡委員：

帰ってメモを見たら書いとらんよね、書いとろう思うたけど、ごんごん言われるんでそれを聞きよったら。

土居教育長：

何だったかなというような。

井上委員：

結局視点がありすぎて、入り方からもわからなかったなというのが正直なところで。教育長今説明されたんで、非常にわかりやすかった。

土居教育長：

それで説明をさせてもらっただけども、その人を付けるかっていう議論ですよ、それと口羽公民館NPO任すかっていう、まあこの議論ていうのは、なかなかこう簡単には、3番目NPOに任せるかいうのはなかなか重たい課題なんで、2番目の人を付けるかっていう分について、議論を、町長の提案だったんで、どうかなあという。

井上委員：

この人を付けるかっていうのは、今の人プラスアルファを付けるっていう話ですか。付けれるんですか。

森岡委員：

町長付ける言やあ付けれる。だが新聞ではね、中国新聞は保健師を配して、それは違うよと言われたみたいだけど、この間の話ん中でもそれができますよね、保健師がね。ひょっとするとその辺の思いがあるんかなと。

土居教育長：

私は、公民館主事を二人にする必要はないなあと思うんですよ。それだったら、生涯学習課に一人付けてもらって、公民館との連携とか、そういうプロジェクトとか、そういうのにかかわってもらう人の方がうまくいくんじゃないかなあ。

森岡委員：

それは今教育長が言われた方がええと思いますね。今もう担当がおるじゃないかいわれたら、それはいろんな課と12公民館との連絡調整とか、事務が多いじゃ

ないかと。だって一人ほど、片一方指導主事みたいに深く12公民館回っていること話し合ったりとか、何かの時に補完をしてやるとか、困り感のある時にはちょっと応援しようみたいな、やってもらった方が絶対にいい。

服部委員：

それでなくてもお金が予算をえっと付けたら、やっぱり付けろと言ったらちょっとなんて言うんだろう。

森岡委員：

ようわからん、この前の付けんさい言われて、ぽろっとあんどきも保健師さんでるでしょ、わからんなどんな構想か。

武田委員：

なんか人を増やすとか減らすとかって目的次第だなと思うんですけど。意図があって増やすんだったらいいし、意図があって減らすんだったら、減らした人が次何かに回って、てことだと思うんですけど。結局そこがちょっとまだよくわからない段階だと、特に今決めるっていうよりかは、むしろ次の年度の初めのところで、付けるか減らすかみたいな検討を1年かけて、最低限1年ですね。

その評価基準みたいなものを早い段階で作っというて、増えたらこれができるし、もし減らすんだったらこういう考え方があるみたいなことを合わせて検討すべきかなと思います。

土居教育長：

今年度はいうて書いてあるけども、次年度に。令和3年度は現状維持でやって、1、2を集中的に意識して取り組んでみようと。

武田委員：

もし、ここで人を増やす、減らそうとするんだったら、先に言わなきゃいけないですよ、主事さんたちに。こういう実は話が出てて、皆さんはどう思って、増やす必要がありますか、減らしていきますかとかっていうことは、アイデアがありそうですね。

土居教育長：

今日も阿須那の公民館主事に話したら、いろんなことはあるが大丈夫ということでした。

武田委員：

大丈夫っていうのはこのままでっていうことですよ。

土居教育長：

他は聞いていない。

森岡委員：

多分ね、今のまんまだと対住民がね文句言わんけど、主事が減らすとなってくると、それはその回るものが回らない、学校がなくなるのと一緒で。

井上委員：

増えるのは問題ないでしょう、減るのは多分大変でしょう。

土居教育長：

増やすなら、増やす理由がきちんとやらないと、何ですすこだけ増やすんならっという、どっこも増やすいうて話に必ずでてくるよね。

森岡委員：

あこでちょっと気になつとるのは、副町長は人数多いとこ少ないとこが同じでええんかと言われた。

土居教育長：

課題が大きいところは人が増やす、減らしちゃあいけんと思うよね、だからその小さいところは、同じようにおらんでもええというのは理屈にはあわん。ただそのさっき武田さんが言われたように、いろんなことを講座をネットでやるようになると、少しこうそういう部分から言うと、事務職員が出来るところは多くなるかもしれんわね。だけどその分だけは、生涯学習課の者がやるということになると、職員がおらんと、今のあれじゃあパンパンだもんなあ。そういう意味じゃあ一人増やすというのは、生涯学習課に一人増やした方がええかもしれん。そういうことをやっていこう思うとね。で、ちょっと公民館主事の力を違う所へ集中してもらおうというようなことも考えられるようになっていくわね。

武田委員：

昨日みたいになんか好きなことをもっと他の会議でやれみたいなことを主事さんたちにお伝えしたら、やってんじゃないですかね、なんかやってくれる気がしますけどね。

服部委員：

中でもね、たくさんの行事も整理して。このまま行事の中でも地域の住民が勝手に集まって、勝手に開いてる教室みたいなもんもあったり、主事さんが必要な

行事はないけども、この子どもたちを集めて何とかって言ったら主事さんも大変なんだろうなと思うけども、それを子どもたちを集めて、どうも親も付いて来るとるみたいだから、その親の中にリーダーが一人二人来てくれると、クリスマス会はその親がリーダーシップ取ってやってくれるみたいに一括りが、できればいいんじゃないかなと思ったりしてね、何もかも公民館がそろえてはいどうぞ、親も一緒に楽しんでじゃなくて、親が主体的に行事やってくれればそういう人づくりもいいかなと思う。

土居教育長：

奈須君の取組、こういう地域学校も保護者に参画してもらって、てごうするじゃないわ、田所のなんとかしょうかいというのとセットになって、やってくれるようになったという言ったから、やっぱりそういう自分が全部主体で動くんじゃないで、そういうふうにか誰かに仕事を分担していける様な、仕組みづくりに努力して、そういうところを狙いにして、活動を組んでいくというのは、すごく大事なことだと思うんですよ。それで動く人が出てくると思うんで、なかなか、言うは易いかもしれんけども、だけどそういう狙いで、少しずつ動いていかんと、全部自分が自分が言うて、準備から後片付けから自分でやるような主事はしんどいと思います。

服部委員：

まあたまたま井原公民館が一番上にあつたから、七夕会なんかもそりゃあ竹を切ってくることはできんでも短冊を作らすぐらいは、小学校の高学年位だったら出来るんじゃないかなと思ったりして。そういうの育てていって、だんだん手を離れて、それから口羽公民館のNPO法人がやりましようって言うのは究極の形だと思うんですよ。

森岡委員：

内容はすごく言われることはすごい自信をもってやっておられるんで。

武田委員：

口羽公民館のNPOっていうのはそういったのを具体的に話しになったのを提案があったんですか。

土居教育長：

そうです。教育委員会は聞いてないんですよ。町長が聞いた。

井上委員：

そんな状況です。

武田委員：

口羽の中ではそれがみんなの意見になってる。そういう感じ。

土居教育長：

やっとなれる人が、そこでやっとなる人が言っただけの話でしょ。

井上委員：

そこでやっとなれる方々は、もともと立ち上げた時点では、補助金を使って事務員さんを置くことにしたんですよ。それ補助金が切れて、いろんな事業をやりながら、NPOでは事業は出来ないの、また違う、同じメンバーで違う団体、要はNPOじゃなくて、事業できるものも立ち上げて一緒にやられてるんですよ。事業が新聞配達があったりとか、お米を送ったりだとか、ああいう感じです。雪かきとかそれで、事務員さんを一人雇ってよろず相談というか、生活の部分でなんか困ったことがあればそこで受付を試してみたいな感じの事業をされています。

土居教育長：

だけえ公民館をやるということは、その代わり、事務員の給料をくれという。

井上委員：

だと思います。箱と要するに建物の箱とそれから人件費ですよ、その部分。でもこれどうですかね、まあ非常にはなれてるんですけど。

武田委員：

その人がずっとやってくれるんだったらいいんじゃないですか、これって継続性がこわれて、1回やってやっぱりいなくなりました、次受けてがないですってなった時に、本当に。

土居教育長：

結局一年やって、悪けりゃやめりゃあええじゃないかいうて町長が言われたけども、良いか悪いかという評価を誰が出来るんだろうかという話もあると思うんです。口羽地区の合意なのかいうところもあるし、ほいからNPOで出来ることと出来んことが多分あると思うんですよ。それはNPOが出来るところはNPOにやってもらって、出来んところは公民館で活動としてやらんとNPOは人を育てる団体じゃないと思うんですよ。公民館は人を育てないと、その次活躍する人が育ってなかったら口羽も危ないじゃないですか。今の世代は動くかもしれんけども、これが後次いでやってくれる人をやっぱり公民館を育てていく場なんだから、そういう意味で本当にこうNPOで大丈夫なのかなあという。

井上委員：

多分でも話を町長に直接されたっていうことは、全国的によくわかんないですけど、そういう事例があるのかなど。要はその公民館をNPO法人がそういったモデルをご存じでそういう話をして、自分たちも出来るよっていう話をされてるんだと思うんですよ。それはどうも行政の関係も網羅しながらやっていくっていう話しじゃないかなと思います。本当は恐らく、自分NPOの団体で頑張ってるんで、いいことだと思うんですよ。だけど公民館までまかせてくれって言わんでもいいかなという話に、なぜそこまでっていうのは正直思いますよね。公民館は公民館で役割をしっかりとやって、できない部分をこのNPO法人がいくのが一番理想的なんじゃないかなと。

土居教育長：

そう思いますよ。

井上委員：

NPO法人が公民館を使つとるみたいな感じを今状況なんかなあというのが、なんとなく感じます。

大橋生涯学習課長：

宿題をいただいていたんですけど、県の方に問い合わせをしてですね、まず一番は、昨年度か全国公民館表彰を受けられた沖縄県の若狭公民館というところが、実はNPO法人が運営をされておられます。これは全国表彰をされた優良公民館であります。それと岐阜県米原公民館、これもNPO法人だそうです。

メンバーは全員20代で運営をされてる。それと奈良県はですね、財団が運営をまかされている。実はあのう身近なところで、川本町の三原、これの町づくりセンターなんですけど、民間任意の団体の指定管理で運営をされているということで、法的には問題はないという回答をいただいています。

森岡委員：

米原はね今の議員さんおりんさるころだったかね、公民館視察に行ったんじゃないか昔。当時の教民が。

井上委員：

いろんなどこから視察に来られてるみたいなんで。NPO法人立ち上げから、事業の関係の。

森岡委員：

確かに、話をきくとねえ、あれはものすごい。

井上委員：

話を聞くのも授業料をとるっていう、一人千円、2千円だったかな。

武田委員：

ソフト面はなんとかなる気がするんですけどハードの位置っていうのはその場合どうなるんですかね。それはやっぱり行政がやってて、中だけを任せる。

大橋生涯学習課長：

おっしゃられるのはそのハード面で、このまま今の公共施設をすべて維持していくっていうのは不可能であろうという数字も出てまいります。公共施設の総合管理計画というのが出てきまして、要するに長寿命化させていく建物、統廃合していく建物、廃止していくもの、再編していくものとそういった住み分けをいよいよ机上で始めて行くというのがまあ今年度だろう、で、教育委員会ほとんどまあ町の半分以上でしたかね、公共施設が教育委員会の管轄であります。それでまあどうしていくのかっていうので、非常に悩ましい。教育委員会としては今の時点では全部の建物の長寿命化ということを想定して、結果は今、作らさせていただこうとは思っています。今後住民さんもどうも在り方検討委員会というものか立ち上がったたりしていよいよ本格的に精査に入っていく段階です。

武田委員：

そういう意味では、やり方って変わってかなきゃいけない時期になりますね。

土居教育長：

3番目のNPOに任せるってかかっていうのはなかなか結論はできませんね。いろんな課題もあるし、出来ないことはないけどもそういうこう持続性であるとか、人を育てるといふ部分とかもすると本当は補完し合っているいい口羽地区になるようにお互いを役割分担しながらやっていくというのが一番いいことじゃないかなと僕は思うんですけどね。

井上委員：

プールもそれから交流センターも指定管理、ですよ。

森岡委員：

今教育長が言われたようにね、やっぱりNPOとお互いに互換し合いながらやっていくんだというふうに話をして行かないといけない。

服部委員：

それでもね、町長さんがトップダウンでといわれるんだったらそれはしょうがないか。

土居教育長：

設置条例を変えないといけない。

森岡委員：

多分いろんなそういう部分はね、ある意味組織たる部分、その辺を全部構築されるんですよ。それは違うてはやれんのんでね、町長の思いと、大変本人もいろいろ腹の中全然違うても言わにゃあいけん。

土居教育長：

ありがとうございました。行政改革についても学校教育課はプールの修繕費をどうするかという、プールが痛んでいて費用が掛かる。尚且つ使う頻度は、何校かになって、水代、電気代それから管理、消毒の管理、大変なお金をかけてます。日貫は子どもも少ないということもあって、プールは直さず矢上のプールを利用してもらってます。そういうふうにこう中心にどっかのプールを共同して使うというようなことを考えていかにゃあいけんのんだけど今、コロナの関係で、更衣室は小さくしないといけないのがあって、それから夏休みにプール開放をやるとるんで、それが子どもの輸送費もプールがないとみにゃあいけんというような。そういう課題も出てきております。教育施設もいっぱい持つとって、いろんな体育館も考えていかない課題もあるし、なかなか言うは易いけども、まあ10%減らせ言うて目標なんですけど。で、10%減らすのは簡単なことだあや言うて、学校使っていない教室があるけえ、それつぶしゃあええじゃないか言うて思うけども、そうはならないという。使っていない教室をつぶしゃあええだけの話だいうていやあそうなんだけども、そういう事でないという。社会体育施設も地域ごとに一つあればええような形にしていかにゃあいけんよね。公民館と体育館が一緒になっているところがあるので、石見地区はみんなそがあで、それをも雨漏りがするように古くなったら直さずに学校の体育館を直して、それを共有していくような考え方にしていかないとなかなか難しいんじゃないかと、そういうこともだんだん目の前の課題になってくるんで、また教育委員会で協議していかにゃあいけんような課題になりつつあります。

大橋生涯学習課長：

まだ計画までは至っていないので、まずは計画を住民のみなさんとともに作っていったというようなところですので、実際に本格的に動き出すのが、多分2年後

ぐらいですかね。

土居教育長：

その前にどういう施設がどこにあるのかいうのを地図に落として、これは一つにせにゃあやれんなあとか、というようなことを教育委員会の中でも課題にしてみんといけんのんじゃないかなと思います。あの最後に任す前に教育委員会に諮っておかないといけないのではないかなと思います。

服部委員：

昔子どものスポ少の合宿の関係で江津の体育館を探すんですよね、そうしたら石見町のこのどこの公民館にも体育館がついているもんだっていう考えがいかんげいな考えだったかいうのがわかって、ほんに大きなトレーニングセンターが少年の家か何かにぽおーんとあるだけで、公民館に体育館がついてるようなところってなかったですよね。もう20年も30年も前の話だけど、もうちょっと箱モノを維持していける時代じゃないんじゃないかなと思いますね。

土居教育長：

ありがとうございました。

日程第7 閉会宣言

以上で、第13回を終了します。

(～20：50)